



企業と  
地域が つながるとき

## 新人研修の中で ボランティア!?

～三菱東京UFJ銀行の取り組み～

研修最終日の午前中。地域ごとの分科会において、「今回の体験から何を学び、どう活かしていくのか」をチームで発表した。

### 新人736名が都内の211施設で ボランティア体験

東京ボランティア・市民活動センターでは、三菱東京UFJ銀行の本社および全国の支店に配属される「総合職(特定)」の方たちの新人研修(コーポレート・シチズンシップ・プロジェクトCCP)を都内の区市町村ボランティアセンター(以下、「地域VC」と連携しながら、都内の福祉施設やNPOで実施しています。

6年前に開始した頃は、社員の数は400名であり、5か所の地域VCと40か所の施設で2日間実施していましたが、その後、社員数が年々増加し、今年は736名の社員が、20地域の211か所の施設において、5日間のボランティア体験研修を行いました。

このような膨大な数の社員の方々と関係機関が参加する研修なので、その準備は半年前に開始します。まず、地域VCに協力を依頼し、受け入れ施設を募っていただきます。そして、2〜3か月間をかけて、各地域VCで受け入れ施設向けの説明会を開催しています。施設数が多い地域では説明会を2度以上実施したり、新規施設で説明会に出席できないところには三菱東京UFJ銀行人事部(以下、「人事部」と本センター)と個別に訪問することも。研修を

成功させるためには、企業・センター・施設の3者が研修の目的や進め方について共通理解することが非常に重要だと考えているからです。

### 企業人・社会人としての「土台づくり

では、なぜ、人事部は大きなエネルギーを費やししながら、新入社員にボランティア体験をさせたいと考えているのでしょうか?

1つには、社会貢献意識とそれを実践する行動力を身に着けること。新入社員たちが、地域社会について体験的に理解し、その経験を通して、人や社会のために貢献できる人材になってほしいということがあります。

2つめは、相手の立場にたったコミュニケーションができるようになること。本研修を通して、高齢の方や障がいのある方、小さな子どもなど、世代や状況が違う方々とお会いして、その方々の立場を配慮しながらお手伝いをしたり、交流をしています。3つめは、チームワークの大切さを知ること。社員は3名以上のグループに分かれて、各施設にでかけていきます。同じチームの社員が助け合って活動することだけでなく、利用者の方々と、施設のスタッフの方々と一緒に協力できるという意味もあ

ります。

こうした3つのことを学ぶことが、社会に貢献できる企業人・社会人としての「土台」をつくることだと人事部では考えているのです。

## ボランティア・センターや 福祉施設・NPOの「願い」

では、どうして企業の研修にボランティアセンターや福祉施設・NPOが協力するのでしょうか。

本センターとしては、企業で働いている方々も「地域社会の一員」＝「市民」であるにとらえています。彼ら・彼女たちは企業の中で忙しい日々を過ごしているのです、なかなか地域社会とのつながりをもつ時間がありません。そうであれば、こうした企業の研修という中で、地域社会にはいろいろな方が助け合って暮らしていることを実感していただき、自分たちが仕事やボランティア活動を通して地域社会に貢献したり、また、自分たちが子育てや親の介護、病気をしたりしたときに、地域社会に支えてもらえることを知ってほしいと考えています。

また、社員を受け入れていただいている施設のスタッフの皆さんからは、「利用者の皆さんや福祉施設について理解してほしい」

「利用者の方々の日頃なかなか触れ合う機会のない若い人たちと交流して、楽しい時間を過ごしてほしい」という思いがあるようです。

## 全5日間を通じた ボランティア体験と学び

では、実際にどのような研修内容なのかをご紹介します。本研修の特徴は、施設でのボランティア体験の中に、社員が自分たちのできることで利用者の方々喜んでいただくことを主体的に考え、準備し、実行するという「交流企画」が入っていることです。また、現場でのボランティア体験以外に、事前研修・中間の振り返り・事後研修を実施し、福祉施設・NPOの方々を講師としてお招きしながら、ワークショップやディスカッションを行うとともに、社員同士の学び合いを大切にしています。

### ○第1日目

#### 福祉現場に行く準備をする事前研修

まず、研修初日の午前中には、人事部より研修目的の説明や、昨年参加した先輩からのアドバイスと激励のスピーチがあります。次に、高齢福祉・障害福祉・児童福祉

の現場で取り組んでいる方々を講師としてお迎えし、CCP委員会（本研修の運営を手伝うことに立候補した新入社員からなる実行委員会）から活動するにあたって知っておきたいことを質問するパネル・ディスカッションを行います。そして、第2期生がデザインしたTシャツが配られ、昼食には障がいのある人たちの作業所で作ったおいしいお弁当やパンを食べていただきます。

午後からは、「コミュニケーション」を共通テーマとし、受け入れ施設の種類に応じて、①認知症の方々、②高齢なの方々、③身体障がいのあるの方々、④知的障がいのあるの方々、⑤精神障がいのあるの方々、⑥乳児・幼児、⑦小学生、⑧不登校・引きこもりの青少年、といった8つの分科会にわかれ、ワークショップを行っています。

講師は、福祉施設やNPOのスタッフやボランティア、当事者の方々です。施設の利用者の方々について理解したり、その方々の立場に立ったコミュニケーションの基本について体験的に学びます。こうした事前研修は、社員の皆さんのモチベーションを高め、不安を軽減するなど、福祉現場に向かうための準備をする場としてとても重要です。

## ○第2日目

戸惑うことばかりのボランティア体験

翌日、社員は3〜5名のチームにわかれて、都内各地の施設に出かけていき、施設から依頼された活動をします。初めての場所とまどうことばかりですが、特に、利用者の方々とどうコミュニケーションをとったらよいかを悩んでいるようです。こうしたボランティア体験をしつつ、利用者の方々が喜んでくれそうな交流企画についても考えます。

活動終了後の振り返りの時間には、スタッフの方にもいろいろ質問したり、交流企画についても相談します。「それはちょっと利用者の方には難しいかもしれませんね」と、具体的なアドバイスを受けながら、企画内容を詰めていきます。

## ○第3日目

中間の振り返りと交流企画の準備

3日目は、社員の皆さんが研修所にもどってきて、前日の体験について振り返り、受け入れ施設の種類ごとの分科会で活動報告や課題を発表します。特に認知症のある方々や重度の障がいのある方々とのコミュニケーションの取り方や、その方々が参加できる交流企画について悩んでいるチーム

も多く、社員同士がお互いの経験やアイデアをシェアしています。

午後はチームごとに、交流企画に必要なものを買出しにいたり、踊りやゲーム、手品などの出し物の練習をします。どのチームも、利用者の皆さんに喜んでもらうと、入念な準備をしています。

## ○第4日目

2回目のボランティア体験と  
交流企画の実施

さて、施設でのボランティア体験2回目は、1回目の反省を踏まえ、利用者の方々とより積極的にコミュニケーションを図ろうとしているようです。

そして、交流企画では、高齢者の方々と一緒に歌をうたったり、工作やゲームなどをしたり、障がい者の作業所の方々にビジネスマナーをわかりやすく伝えたり、青少年に受験や仕事の話をしたりと、多彩な内容となっています。

活動終了後には、スタッフの方々と振り返りを行い、ボランティア体験の感想や今後どのようにボランティアができるか等を話し合っています。

## ○第5日目

地域ごとと全体での振り返り



千代田区立高齢者センターでの交流企画：社員がつくったクロスワードで盛り上がった。



興望館保育園での交流企画：  
大型パズルに子どもたちも大喜び。

最終日の午前中には、地域ごとの分科会において、各チームがさまざまな施設での体験について、①施設の紹介、②活動の内容、③交流企画の説明、④今回の体験で学んだこと、⑤今後のどのように仕事や生活の中で活かしていきたいか、⑥他の社員に伝えたいことを模造紙にまとめて発表します。それに対して、地域VCのスタッフからコメントやアドバイスをしています。

午後は、736名全員が一同に会し、高齢福祉・障害福祉・児童福祉のそれぞれの分野から1チームが発表。今年、高齡者施設でお年寄りの方々とEXILE\*の『Choo Choo TRAIN』を踊ったチームが実演したり、アルコール依存症の方々の作業所やフリースクールで活動したチームが、利用者の方々から学んだこと、他の社員に伝えたいことを熱く語ってくれました。3チームの発表に対して、現場の講師の方々から、労いの言葉や、アドバイス、激励のメッセージなどがあり、本センターから「今回のボランティア体験で何か得ることはありましたか？」という質問に対して、会場全体が拍手で包まれました。

### ボランティア体験を今後活かして

研修終了後、社員一人ひとりの書いたレポートを集め、受け入れ施設と地域VCに

お送りします。どのレポートも細かい文字でぎっしり埋め尽くされ、多くの気づきや感動があったようです。また、受け入れ施設のアンケートからも、社員たちの真摯な姿や、積極性、丁寧なコミュニケーションについて、「利用者の方々おひとり、おひとりのことを理解しよう、喜んでもらうと努力している」と、高い評価をいただいています。

社員の皆さんは、これから全国各地に赴任し、それぞれの職場で、クライアントの立場や背景を考慮しながら仕事をしていただき、各支店の社会貢献活動でリーダーシップを発揮したりと、活躍しているようです。非常に忙しい日々だと思えますが、年に1日でもよいので、地域社会の方々の交流やボランティア活動に参加することは、社員自身のためであるとともに、地域社会について理解することによりよい仕事ができるようになるのではないのでしょうか。私たちボランティア・市民活動センターは福祉施設・NPOで企業の人たちがボランティアでできるような機会をもつともっと作っていきたくと考えています。

河村暁子  
(東京ボランティア・市民活動センター)

\*エグザイル。14人組のダンス・ポーカーのユニット。